

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<p>(1) 習った漢字を文章で使うことがまだ難しい。作文など文を書く時に、習った字をひらがなで書いてしまう児童もいる。</p> <p>(2) 自分の思いを聞いてほしいという気持ち強いが、話す力が弱く、緊張して上手く話せない児童や声が小さくなってしまっている児童がいる。</p> <p>(3) 読書を好む児童が多いが、本を読む習慣化がされていない。</p>	<p>(1) 漢字の学習の際に引き続き使い方を全体で確認し、使い方を理解できるようにする。また、文章を書く時にも、習った字は漢字で書くことができるようにする。</p> <p>(2) 小グループで発表し、感想を伝え合う機会を増やす。また、全体でも、自分の発表だけでなく、相手の発言を受けて、質問したり、感想を伝え合ったりするなど自分の考えや思ったことを伝える機会を多く作る。</p> <p>(3) 図書時間に読み聞かせを行ったり、二学期も読書の記録を継続したりして、本を読む習慣が身につくようにする。</p>	
算数	<p>(1) 身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすることに課題がある。</p> <p>(2) 時計を正確に読むことや計算をして目的に応じた時間を求めることに課題をもつ児童が多い。</p> <p>(3) 学習した内容を日常生活に結び付けて考えることに課題をもつ児童がいる。</p>	<p>(1) 身の回りのものの量の大きさ調べ、記録する学習活動を設定する。また、それらを基に量の大きさの見当をつける学習活動を設定する。</p> <p>(2) 時刻や時間の学習は技能的な課題が多い。時計の読み方が習慣付くように日常において児童に時刻や時間を問うたり、宿題で時刻や時間に関する問題を解くようにしたりする。</p> <p>(3) 児童の身の回りにおける場面に関する問題を設定し、日常生活の中の諸問題を算数で解決することができることに気付かせる。</p>	
生活	<p>(1) 観察するものの特徴を捉えて観察することはできるが、状態の変化について気付けない児童が多い。</p> <p>(2) 実際に体験したことを文章に書いて表現する力に、個人差がある。</p> <p>(3) どの活動にも意欲的に取り組む児童が多い。</p>	<p>(1) 気付きの質を高めるために、それ以前の観察や体験での共通点や相違点を示すことで、気付きを価値付け、質を高める。</p> <p>(2) 文章で表現するだけでなく、絵や動作などで表現するなど多様な方法で表現させる。</p> <p>(3) 活動時間を確保して、より満足感や達成感を感じられるように、グループ活動や異学年交流等、活動内容を工夫する。</p>	
	<p>(1) 木琴や鉄琴では、音色に気を付けて演奏することができていない児童もいる。</p>	<p>(1) 鍵盤ハーモニカ以外の楽器も取り入れ、音色や表現の仕方を今後の学習に生かせるよう幅広く技能を身に付けさせる。感染症対策にも留意する。</p>	

音楽	<p>(2) 曲の雰囲気や特徴には気付いているが、それをどう表現するかという思いや意図にまだ結び付いていない。</p> <p>(3) 集中力に差がある。全体で協力し音楽をつくりあげられるようにする。</p>	<p>(2) 曲の雰囲気や特徴に合った表現ができるように、色々な表現方法を試すことで、工夫する楽しさを味わえるようにする。</p> <p>(3) 簡単なアンサンブル、合奏などに取り組み、感じたこと、気付いたことを全体で共有し、工夫する楽しさを感じられるようにする。</p>	
図画工作	<p>(1) 1学期は粘土作品に多く取り組み、立体の作成が上手になっている子が多い。</p> <p>(2) 絵の具を使った作品の場合、イメージしたことを表現する力に差がある。</p> <p>(3) 図画工作科の学習を楽しみにしている児童は多いが、発想力に差があることから、意欲が続かなくなる場合もある。</p>	<p>(1) 2学年の間にはさみを安全に使えるようにし、カッターナイフで安全に紙を切ることも体験させる。</p> <p>(2) クレパスを一部に、あるいは全体に用いることで、誰もが発想したことを表現できるようにする。</p> <p>(3) 行為や感触から作品づくりの発想をもつことができるような題材を用いて授業を行う。どの子も発想がもて、つくりだす喜びを感じられるようにすることで学びに向かう力を一層高めていく。</p>	
体育	<p>(1) 感染症予防のため、運動内容が偏り、児童の意欲が低下する恐れがある。</p> <p>(2) なぜできるようになったのか、工夫したポイントを自分で把握して友達に伝えることが難しい児童がいる。</p> <p>(3) 多くの児童は、きまりを守って運動に進んで取り組むことができる。それをどう持続させていくかが課題である。</p>	<p>(1) 運動の楽しさや喜びに触れさせるために、用具を持たずに跳んだり、はずんだりしやすい場所で行う。また、曲に合わせて体を動かすことにより、運動する楽しさを味わわせる。</p> <p>(2) 運動遊びのポイントを明記した学習カードを用いて、ペアで見合ったり、友達に工夫したことを伝えたりする場を設定する。また、体育ノ介などの教育ビデオをみることで、ポイントがどこかを視覚的に理解でき、言語化できるようにする。</p> <p>(3) 毎時間のめあての提示や「やってみよう」と思える場の設定を工夫し、意欲を高めていく。</p>	